

中国社会学社会福祉研究専門委員会第 11 回年次大会報告 II

中国社会学社会福祉専門委員会第 11 回年次大会での自由研究発表について

劉 鵬瑤
東洋大学大学院

2019 年 11 月 8 日（金）～10 日（日）、中国広州市にある中山大学で開催された「中国社会学社会福祉研究専門委員会第 11 回年次大会」に参加した。爽やかな秋を感じる気候の中、中国、日本、韓国、アメリカから 72 の大学関係機関 141 名の研究者が一堂に会し、大会テーマ「Welfare Regime and Better Life」をめぐって、活発な議論が行われた。

中国社会学社会福祉専門委員会理事長の HUAMIN PENG 教授（南京大学）をはじめ、日本からは本学会の会長である金子光一教授ら、数多くの著名な研究者が講演を行った。大会では①中国における福祉研究 30 年間、②児童福祉と障がい者福祉、③社区ガバナンスと反貧困、④高齢者福祉と養老保障、⑤医療保障、⑥失業と就業という 6 分野、15 分科会に分類され、それぞれ研究報告が行われた。

私は③社区ガバナンスと反貧困の分科会において「中国都市部社区職員の網格長による住民への支援管理—クラシックグラウンデッド・セオリーによるアウトリーチの実践—」という題で、口頭発表を行った。社会問題が多様化する中国社会では、住民に対して、社区を基盤とする多様な主体からなる連携を軸とした支援が求められている。これら住民に支援を提供する社区職員の網格長に関する先行研究は不十分であり、今後研究が期待される分野である。

本発表の成果は以下 3 点挙げられる。1 点目は、初めて社区ガバナンスに関心を有する研究者らの前で、研究成果を報告し、多くの方々に私の研究について関心を持っていただけた。議論を通して自分の研究における今後の課題や新しいアイデアを得ることができた。2 点目は、社区による支援に関する研究動向や現状をより詳細に把握することができた。3 点目は、関連領域の研究者との活発な意見交換や交流ができ、研究のモチベーションが高まったことに加え、今後の研究の手がかりを得たことが大きな収穫として挙げられる。

本発表により、貴重な経験を積むことができ、母国で発表する機会を与えてくださった日本社会福祉学会に、心より感謝申し上げる。今後、さらなる研究の発展に尽力し、日中の研究がより一層深まっていくよう、精進して参りたい。